

豊島区立明豊中学校で林和彦・東京女子医大教授が出張授業

日本対がん協会は3月4日、東京・豊島区の区立明豊中学校でがん教育の出張授業を行った。講師は東京女子医科大がんセンター長の林和彦教授。林教授は専門医として長年がん患者や家族と接するうちにがん教育の必要性を痛感し、先ごろ教員免許まで取得して、学校でのがん教育に熱心に取り組んでいる。

この日は約20人の生徒らに「がんに対する正しい知識を持ってもらい、がんを通じて色々なことを考えてもらいたい」と語りかけた。

授業では、がんになった著名人を紹



授業には中学2年生、3年生が出席した

介して、がんが2人に1人がかかる身近な病気であることを示したうえで、「がんを防ぐための新12か条」を解説。特にタバコについて詳しく解説した。15歳までにタバコを吸うと、将来30倍がんにかかりやすくなることや、タ

バコを吸っている人の汚れた肺の写真などを示して、「もし家族がタバコを吸っていたら、勇気を出してやめるように言ってほしい」と呼びかけた。

後半は生徒らへの事前アンケートで聞いた「大切な人ががんになったらどうするのか」という質問の回答を紹介

しながら、がん患者を守るためには家族の力がいかに大きいかを強調。「みんなはお父さん、お母さんよりがんについてよく知っているんだよ。今日学んだことを家族に話して、家族を守ることを考えてほしい」と語りかけていた。